

○壱岐島産キビヒトリシズカについて (品川鉄摩) Tetsuma SHINAGAWA :  
Notes on *Chloranthus Fortunei* (A. Gray) Solms of Isl. Iki

昨年4月、桧山庫三氏は岡山県吉備郡産(1904)の一標本を検討し、日本最初の *C. Fortunei* であることを明らかにされたが(本誌 37: 125), 筆者は5月13日, 本種を壱岐島で発見した。本植物で現在日本で知られているものは前記の一標本だけであるから、資料のやや豊富な壱岐産のものについて、その変異の様子などについて調査した。次に調査結果を記載と対照して報告する。調査の対象は長崎県壱岐郡石田村の路傍、けい畔、林縁に広がる1群落 1285 茎(株でない) 全体。1962年5月21日調査。

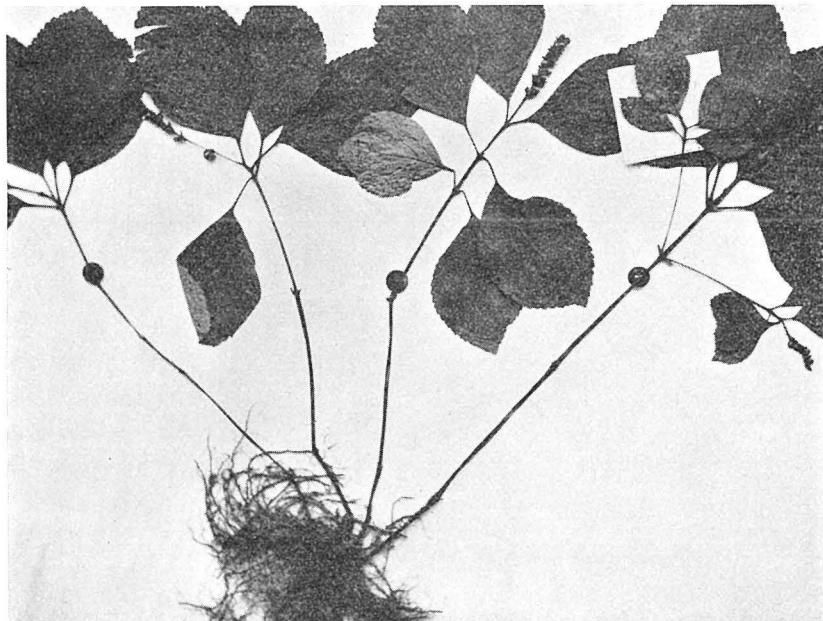


図1. 対生3段と仮輪生の3段が、同じ根茎から出たもの。右の端の茎からは対生2段の側枝が出ている。

1. 葉の数と着き方 次の表によって、葉の着き方には今度の調査の結果新しく見つかった B, D, F を合せて 6 種類あること、A が基本型で C, E, D は比較的生じやすい型であること、B は茎数としては少ないが、側枝では圧倒的に多い型(図1)であることがわかる。また地下部の調査によって、A 以外の B-F はことごとく A と同じ根茎から出ている事実を確認した(図1, 2)。以上のことから、葉は4枚または6枚で、その着き方は分類上意義をもたぬとの記載と完全に符合していた。

2. 苞の裂片数 苞には3裂品のほか2裂品がかなり多く混じり、まれには無裂のも

1茎の葉数	4		6			
着き方	仮輪生	対生2段	上, 仮輪生 下, 対生	上, 対生 下, 仮輪生	対生3段	仮輪生
茎数	1178	7	42	26	29	3
%	91.7	0.5	3.3	2.0	2.3	0.2
記号	A	B	C	D	E	F

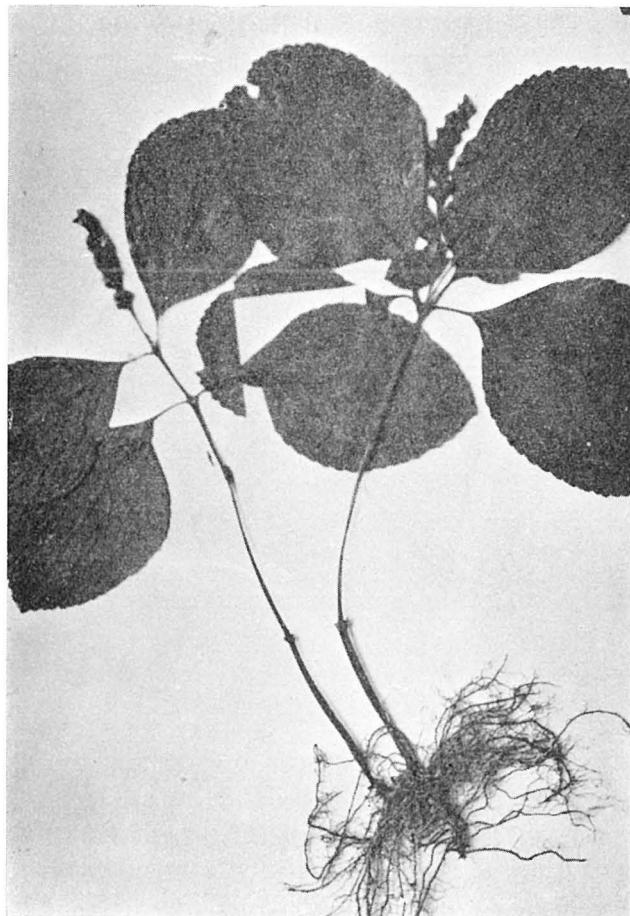


図2. 対生2段と仮輪生の茎が同じ根茎から出たもの。

のも見られた。また筆者の調査範囲では、一花穂全部が3裂または2裂だけのものは認めることができなかった。またこの両者の花穂上における分布の状態は不規則であった。記載によると苞は大形で明かに3裂するのであるが、苞腋のものは2裂への変異の起こったもの（或は逆に3裂への変異過程）と考えられる。

3. 花の大きさ  
(雄蕊の長さ) 雄蕊の長さには10mmをこすものも未満のものもある。特に側枝では10mmをこすものはまれであるが、どんなに短くてもヒトリシズカの雄蕊よりは明らかに長い。要するに苞腋の

ものは記載に比べ、短い方への変異が見られる。

4. 薬の数と着く位置 薬が雄蕊の内側に着くこと、中央雄蕊にも常に薬を着ける点は完全に記載と一致している。ところが中央雄蕊の薬の様子については記載だけでは明らかでない。資料によると左右の薬よりやや高く、雄蕊の分岐部の高さに2個の薬がついている。大きさは左右の薬より僅かに小さい。

なお標本は牧野標本館に収めた。本稿を終るに当って標本の同定を賜わった松山庫三先生に深く感謝の意を表します。(長崎県壱岐郡郷浦町)

#### ○イソツツジ小記 (原 寛) Hiroshi HARA: Notes on broad-leaved *Ledum* of the Far East

長い間日本列島のイソツツジ類に関心をもってきた私の気になっていたものに *Ledum hypoleucum* Komarov<sup>1)</sup> があった。今回レニングラード・コマロフ植物研究所の好意で原記載に引用された標本2枚を借観することができた。一枚は南ウスリー Ternei 湾 (Palczewsky, Sep. 8, 1906, fr.) 産、他は花期の樺太 (Augustinowicz) 産で詳しい地名は記されていない。どちらも葉下面にはきわめて短い白毛が一面に密生していて中肋上にだけ赤褐色の長毛が僅かにある。葉の毛の状態からは東北地方産のイソツツジとよく一致するが、花梗や子房にはイソツツジほど細毛がなく腺点が著るしい。

樺太ではカバフトイソツツジの型が普通で、その葉下面には白短毛が生えさらに赤褐色の長毛がかなり多いのがその基準形<sup>2)</sup>と考えられる。そしてその赤褐長毛がなくなった形が *L. hypoleucum* であり、他の諸性質では一致し区別が認められなかった。*L. hypoleucum* の形は樺太の敷香地区に見られ、今までイソツツジとして報告されている。

樺太や北海道の広葉系のイソツツジ類は、葉下面の赤褐長毛の多少によって、一面にあるものからほとんどないものまで順にチスマイソツツジ、カバフトイソツツジ、エゾイソツツジ、イソツツジと呼ばれる場合が多い。しかし私(1956)<sup>3)</sup>も述べたように、これらは多くの中間形によってつながりその間の境界線はいざれの場合もはっきりしてい

1) *Ledum hypoleucum* Komarov in Bull. Jard. Bot. Grand. **16**: 175 (1916); in Act. Hort. Petrop. **39**: 96 (1923)-Kuznetsov in Fl. Aziat. Ross. **9**: 80 (1916)-Kom. et K. Alisova, Key Far East. USSR. **2**: 836 (1932)-E. A. Busch in Fl. URSS **18**: 29 (1952)-Tolmatchev in Not. Syst. URSS. **15**: 202 (1953); Tr. Shr. Saghal. 150 (1956).

2) *Ledum palustre* var. *diversipilosum* Nakai in Bot. Mag. Tokyo **31**: 102 (1917), emend. in Tr. & Shr. Jap. **1**: 14 (1922). Lectotype: Saghalin, Susuya (Nakahara, Jul. 5, 1906) in TI.

3) Hara in Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Bot. **6**: 351 (1956).